

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

特許第3068726号

(P3068726)

(45) 発行日 平成12年7月24日(2000.7.24)

(24) 登録日 平成12年5月19日(2000.5.19)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

A 0 1 K 87/06

A 0 1 K 87/06

B

請求項の数 1 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平5-90762

(22) 出願日 平成5年3月25日(1993.3.25)

(65) 公開番号 特開平6-276899

(43) 公開日 平成6年10月4日(1994.10.4)

審査請求日 平成10年5月13日(1998.5.13)

(73) 特許権者 000237385

富士工業株式会社

静岡県静岡市南町19番3号

(72) 発明者 大村 ▲りゅう▼一

静岡県静岡市南町19番3号

(74) 代理人 100061790

弁理士 市川 理吉 (外2名)

審査官 秋月 美紀子

(56) 参考文献 実開 昭63-66473 (J P, U)

実開 平4-77764 (J P, U)

(58) 調査した分野(Int.Cl.⁷, D B名)

A01K 87/06

(54) 【発明の名称】 釣竿のリールシート取付構造

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも一方の釣竿用リール脚受入れフードに、釣竿の縦軸方向に摺動溝を凹設すると共に、該摺動溝に係合する釣竿と別体のキーを、リール取付部に厚肉部が形成されてない釣竿上に直接固定したことを特徴とする釣竿のリールシート取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、釣竿に、直接リール脚受入れフードが取り付けられる形式のリールシート取付構造の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】 釣竿に直接リール脚受入れフードが取り付けられる形式のリールシート取付構造としては、既に実開昭61-165170号公報に示されるごとく、釣

2

竿におけるリール脚受入れフードの取付部分を厚肉部とし、この厚肉部に回り止め用の軸方向の溝を削設し、この溝にリール脚受入れフードに設けた突起を嵌入させた構造のものが知られている。

【0003】 前記実開昭61-165170号公報に示される構造では、釣竿に厚肉部が形成されるため、竿重量が増加するのみでなく、リール装着部が太くなって握りにくくなると共に、厚肉部形成工程が付加され、材料増とあいまち、コスト高となる等の問題がある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は釣竿に直接リール脚受入れフードが取り付けられる形式のリールシート取付構造において、釣竿の重量増が殆ど生ぜず、しかもリール装着部の太さの増加も伴わず工程増、材料量も最小限にとどめうるリールシート取付構造を提供するこ

とを課題としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明では、少なくとも一方の釣竿用リール脚受入れフードに、釣竿の縦軸方向に摺動溝を凹設すると共に、該摺動溝に係合する釣竿と別体のキーを、リール取付部に厚肉部が形成されていない釣竿上に直接固定したという構成とした。

【0006】

【作用】本発明によると、釣竿自体には、キーが取り付けられる以外には厚肉部の成形のごとき構造上の変更は全く無く、リール脚受入れフードにも摺動溝が形成されるのみであり、増加する部材としては別体のキーのみであるため、リールシート取付部の軽量化、小型化が図れ、さらにはコスト増をも抑えうる。

【0007】

【実施例】図1、図2、図3および図4は、本発明の実施の一例を示すもので、リール脚受入れフードたる固定フード3、摺動フード6および螺環10、尻環13等により構成されたリールシート1がリール取付部に厚肉部が形成されていない釣竿28に取り付けられた実施例である。

【0008】釣竿28におけるリールシート1の取付位置2の竿先側には、リール脚受入れフードたる固定フード3の位置決め用の小孔20が穿設され、この小孔20に、下面に脚21が突設されているキー5が、脚21を小孔20に嵌入されて取り付けられている。

【0009】固定フード3の内周面には釣竿28の縦軸方向に摺動溝4が凹設されており、該摺動溝4が、前記キー5に外嵌されることにより、固定フード3の周方向位置が決定され、前記内周面と釣竿28の外周面とが接着剤で接着されることにより図4に示すごとく固定フード3が定位置に固定される。

【0010】前記取付位置2の他端には、固定フード3に対向して、リール脚後端固定用のリール脚受入れフードたる摺動フード6が外嵌され、図2に示されるごとく長さ方向の内周面の全長に亘り、案内条溝たる摺動溝7が凹設され、該摺動溝7に後述される別体のキー5とにより、釣竿28に対して回転することなく、矢印A、B方向に進退自在に配置されている。

【0011】摺動フード6が外嵌されている釣竿28のリール取付位置2に小孔20が形成され、該小孔20に、前記キー5の下面に突設された脚21が嵌着され、他方前記摺動溝7には、前記キー5のキー部分たる摺動部分が嵌入され摺動自在なるように装着されているから、摺動フード6の矢印A、B方向への移動が可能とされていると共に、摺動フード6に作用する円周方向のねじりモーメントに対抗して確実に位置保持される。

【0012】摺動フード6の縦断面を示す図2に示されるように、開口部に配設された下向きの斜辺9が、図示

が省略されているリール脚の一端を下向きに押圧する形状とされており、また竿尻側の外周面には、後述される螺環10の内周面の雌ネジ12に螺合する雄ネジ11が形成されている。

【0013】他方前記摺動フード6の竿尻側部分には、前記雄ネジ11に螺合される雌ネジ12が形成された螺環10が、定位置で回転するよう嵌着され、尻環13により係止されており、該尻環13は竿体1に外嵌され、接着剤等により固着されている。

【0014】前記螺環10の後端縁14には凹溝15が凹設され、尻環13の前端の外周面16にも凹溝17が凹設されており、前記凹溝17に、凸状をなす前記後端縁14が回転自在に係合されており、螺環10を回転することにより、前記雌ネジ12にお螺合された雄ネジ11は、矢印A、B方向へ前後進される。また螺環10の外周には複数の凹溝8が配設され、回転操作時の滑り防止に供せられている。

【0015】前記雄ネジ11をリールへ向かって前進させると、斜辺部分9によりリール脚に下向きの押圧力が作用され、竿体1に密着させられる。反対に竿尻側へ後進させると、斜辺部分9による押圧力は解除され、リール脚が摺動フード6の斜辺部分9より離脱させられる。

【0016】固定フード3、摺動フード6、螺環10等は金属の他、硬質合成樹脂で成形してもよく、摺動フード6は肉厚の関係上、金属製とすることが好ましいが、金属に限定されるものではない。

【0017】本実施例では、摺動フード3の主たる材料は硬質合成樹脂とされ、前記斜辺部分9を含む開口部たる前端部の外周には、金属製の外装部23をモールドすることにより合成樹脂部分が補強されており、斜辺部分9によるリール脚への押圧、固定作用に伴い、その反作用として前記摺動フード3の開口部に作用する曲げモーメントの影響を防止し、かつ軽量化を図ったものである。

【0018】図5は第1の実施例の釣竿8に貫設された小孔20と、該小孔20に嵌着される突設された脚21を有するキー5との形状を示す断面図で、リール脚受入れフードたる固定フード3ならびに摺動フード6を竿体1に嵌着させると共に、前記フード3、6の位置決めようとされている。

【0019】図6はキー5の実施例を示すもので、釣竿28に配設された小孔24は、貫通せず有底とし、キー5の脚長を該小孔24の深さに合わせた寸法としたものであつて、位置決めおよび案内の効果は図5の場合と殆ど変わらない。

【0020】図7は、図6に示されるキー5を、リール脚受入れフードたる摺動フード6Aの下部内周面の摺動溝7Aと、釣竿28の下周面との間に介装した実施例であり、摺動フード6Aの摺動構造は、概ね図2に示した摺動フード6と同一構造である。

【0021】図8はキー5の第3の実施例を示すもので、釣竿28の上下方向2箇所に貫設されている小孔20に対応して、キー5が上下位置に配置された構造のものであって、位置決めおよび案内の効果の向上を図ったものである。

【0022】図9はキー5の第4の実施例を示すもので、釣竿28の左右方向2箇所に貫設されている小孔20に対応して、位置決め用のキー5が左右位置に配置された構造のものであって、位置決めおよび案内の効果の向上を図ったものである。

【0023】図10は、キーの第5の実施例を示すもので、釣竿28の上側2箇所に隣接して配設された小孔20に対応し、頭部が前記摺動溝4、7に嵌入され、脚部が前記小孔20に嵌着される形状の頭付キー25が配設されたものでキー25の強度の増加が図られている。

【0024】図11はキーの第6の実施例を示すもので、竿体1の上側に、隣接して4個の小孔20を削設し、それぞれに頭付キー25を嵌入するようにしたもので、キー25の強度のより一層の増加が図られる。

【0025】図12は、キーの第7の実施例を示しており、図10に示される頭付キー25を2個連続のキー26としてものである。

【0026】図13は、キーの第8の実施例を示しており、小孔20を隣接して3個設け、それぞれの小孔20に嵌入される脚3個を有する単一のキー27としたものである。

【0027】前記小孔20、24等は、1mm～5mm程度の小径であり、しかも穂先から元竿までの1本の釣竿中では比較的肉厚で大径のリールシート取付部分に形成されるので釣竿の強度の低下は著しく小である。

【0028】以上説明した各実施例のキーは、いずれも釣竿に穿設された小孔または凹孔に脚を嵌入することにより釣竿に取り付けられているが、図14に示す第9の実施例では、キー29が脚の無い細杆体とされ、釣竿28の外表面30に接着剤で接着され、固定される構造とされている。

【0029】

【発明の効果】本発明によると、リール取付部に厚肉部が形成されていない竿体に釣竿と別体のキーが設けられるのみであり、リール脚受入れフード側にもキーが嵌入される摺動溝が凹設されるのみであって、釣竿の厚肉化とか、リール脚受入れフードの厚肉化等を全く伴わない

ので、釣竿におけるリールシート取付部の軽量化、小型化を図ることができ、コスト増も抑えうる効果を奏する。

【0030】釣竿にはリール脚固定のため、従来必要とされていた厚肉化させた部分が全く無いので握り心地を悪化させることが無く、しかも釣竿の強度を低下させることが無く、リールシートの位置決めも容易かつ確実となる効果も有する。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明の第1の実施例の分解斜視図である。

【図2】図1に示すものの摺動フード側の構造を示す拡大断面図である。

【図3】図2に示すもののX-X線断面図である。

【図4】図1に示すものの固定フード側の構造を示す拡大断面図である。

【図5】図1に示すものの第1の実施例のキーと小孔との構造を示す部分拡大断面図である。

【図6】第2の実施例のキーと小孔との構造を示す部分拡大断面図である。

20 【図7】図6に示す実施例のキーを適用した摺動フード側の構造を示す拡大断面図である。

【図8】キーと小孔との第3の実施例の図5と同様の断面図である。

【図9】キーと小孔との第4の実施例の図5と同様の断面図である。

【図10】キーと小孔との第5の実施例の図5と同様の断面図である。

【図11】キーと小孔との第6の実施例の図5と同様の断面図である。

30 【図12】キーと小孔との第7の実施例の図5と同様の断面図である。

【図13】キーと小孔との第8の実施例の図5と同様の断面図である。

【図14】キーの第9の実施例を示す断面図である。

【符号の説明】

- 1 リールシート
- 2 取付位置
- 3 リール脚受入れフードたる固定フード
- 4、7 摺動溝
- 5 キー
- 6 リール脚受入れフードたる摺動フード
- 28 釣竿

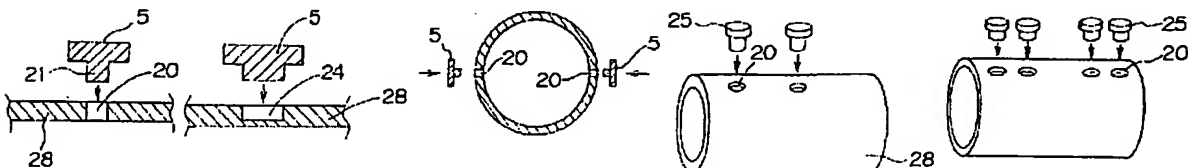
【図5】

【図6】

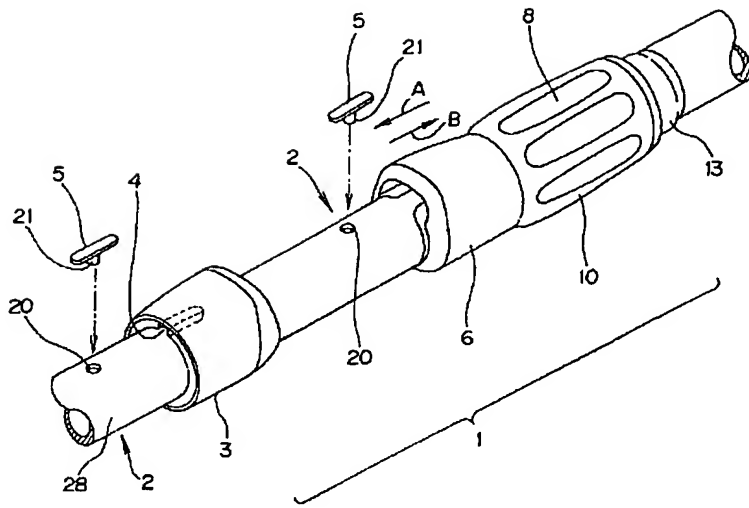
【図9】

【図10】

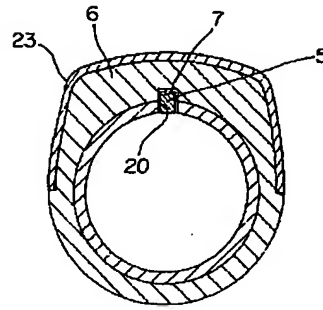
【図11】



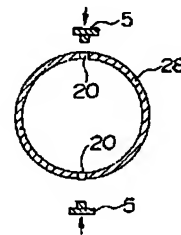
【図1】



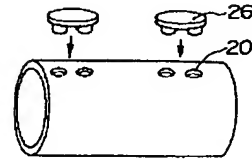
【図3】



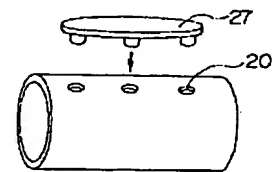
【図8】



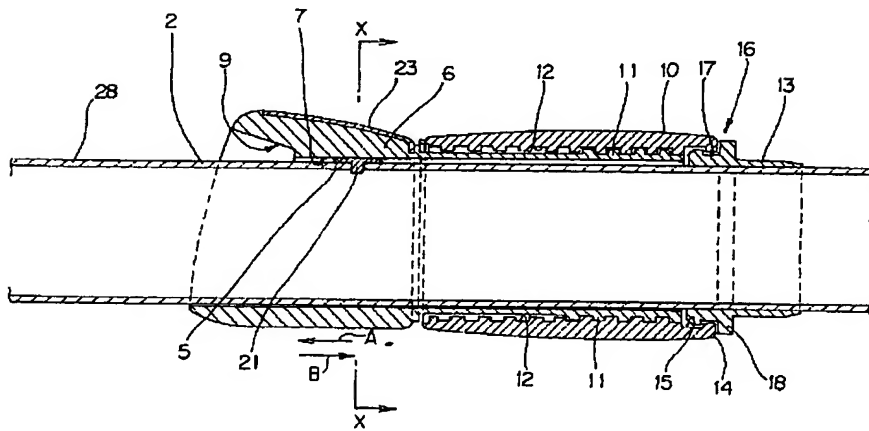
【図12】



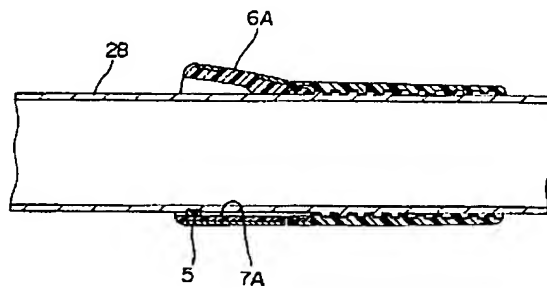
【図13】



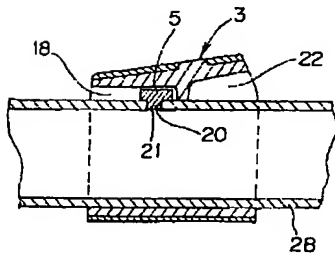
【図2】



【図7】



【図4】



【図14】

